

「たには会中国四国支部一泊研修会兼同窓会報告」飯田 寿

去る平成18年12月2日(土曜日)、12月13日(日曜日)の両日に松山東映ホテルにて、たには会中国四国支部一泊研修会兼同窓会が開催されました。参加者も多く、充実した研修会となりました。初日は支部長挨拶に続いて光藤英彦先生(前愛媛県立東洋医学研究所所長)の講演がありました。玉川病院や代田文彦先生、本田徹先生らとの思い出と、東洋医学研究所の歴史と成果とくに時系列分析について、将来の課題についてお話を頂きました。「日本の鍼灸の教科書はおかしい、GHQの鍼灸廃止要求と検閲を乗り切るためにわかりやすいものを間に合わせたためだ。その当時はしかたなかったのだがそれが現在まで訂正されない。何とかならないものか。」「70年代に代田文誌先生と訪中し、30万円の手持ちしかなく欲しいものも買わずに節約して古典を買いあさった。しかし、ボロの古典を買ってしまったために、苦勞して翻訳、治療法の解説本を作ったが無駄になってしまった。その本を買わずに欲しかった翡翠を買っていれば日本で10倍の値段になったのに。」先生一流のジョークを交えてお話はすすみます。「黄帝内経靈樞九鍼十二原篇の刺針法を蘇らせるのに苦勞した。成立年代はBC2、300年だが書かれたのはBC100くらい。ちょうど上古漢語と中古漢語が入り替わる混乱の時期なので意味が変わってしまったりしている。」「定年になったので東京の家に帰ろうと考えたが、引退してしまうと東洋医学研究所が県の予算のために廃止されてしまう心配があり、未だに頑張っている」「若い鍼灸師が自分で食べられるだけの腕を身につけるシステムが必要だ。研究所だけでは限られる。たには会には期待している。」「東洋医学研究所方式の時系列分析は研究と教育には素晴らしいが診察に時間がかかる。」「最近は大学も増えてきたので明治鍼灸大学の学生だけでなく他の学生も研究所で採用するようにした。」(すべて飯田の意識です)。触診を重視した刺鍼法など、どんどん興味深いお話が尽きなかったのですが、時間のために講演も終わることになりました。講演会のあとは隣の部屋で懇親会です。ご挨拶、乾杯、参加者の自己紹介、おいしいお料理とお酒。お酒がすすんでいくに従って面白いお話がたくさんできました。会場のホテルが宿泊先になっているので安心してお酒が飲めます。光藤先生も地元でたには会が開催される時は是非よんでくれとのことでした。たには会初参加の面々も、勤務の方も次回参加するようです。初日のプログラムは終了しましたが、皆さん2次会、3次会と繰り出していき、話のたねは尽きません。翌、12月3日は10時から篠原昭二教授の、「誰でもできる経筋治療」膝を中心にした講演です。プロジェクターで投影された図を見ながらの講義、「誰でもできる経筋治療」にも載っている経筋治療発見のエピソード、中国の経筋と篠原先生の経筋の違い、豊富な症例と統計をもとに講演されました。経筋治療と謂えば単純に内庭を刺激したりする治療法と誤解する向きもあるようですが、実際は違います。コツがあります。経筋治療だけではなく、「衛気の虚、気滞、血お、痰飲」の反応の実際の取り方、コツ、その処置法を教わりました。経絡治療、中医学、現代医学に通じている先生ならではの。篠原先生の講演は実演、実技を含みます。「膝の痛い人。」「ハイ!」杖をつきながら被験者が出てきます。「二週間前に溝にはまりました。」「厥陰経筋。気滞があります。熱感があります。つまむと痛いです。・穴に貼ります。」「治りました!」被験者がスクワットを何度もしながら興奮します。「膝が痛い人。」「みんな若いのでいません」「スポーツで痛めて左肩が五十肩みたいに ROM

制限があります」「少陽経筋、太陰経筋」「あれ」腕がぐるぐる回ります。しかもあとからあとからどんどん良くなります。教科書通りではない、魚際を取り方等、経筋のツボの取り方を教わりました。質問大会も終わり、いよいよ解散の時になりました。杉野原先生の挨拶と記念撮影で正午で終了です。気の合うもの同士、昼食をとるもの、用事のあるもの、家路を急ぐものそれぞれに分かれました。